

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2020/21 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・パキスタン、アルゼンチン等で下方修正も、カザフスタンで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

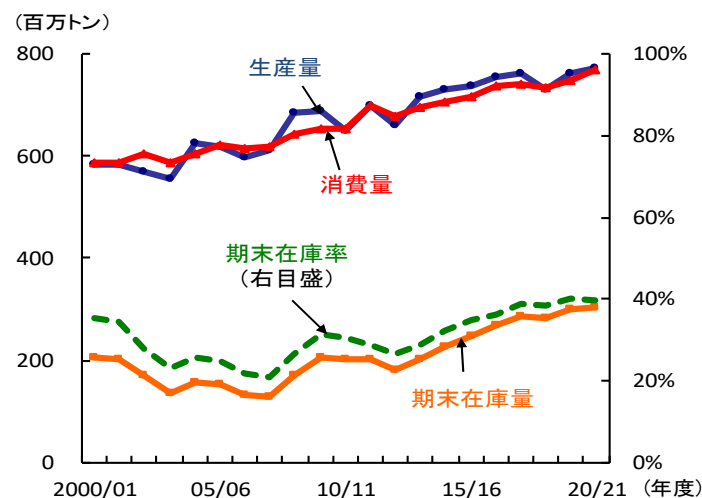
消費量 前年度比 前月比

- ・中国、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・アルゼンチン等で下方修正も、EU、カザフスタン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：「PS&D」（2021. 2. 9）をもとに農林水産省で作成

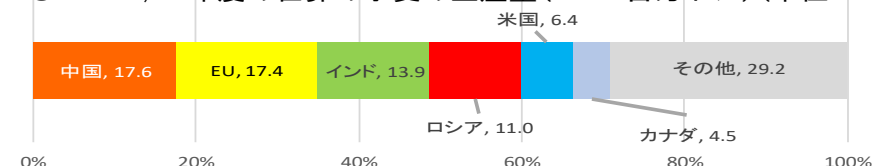
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

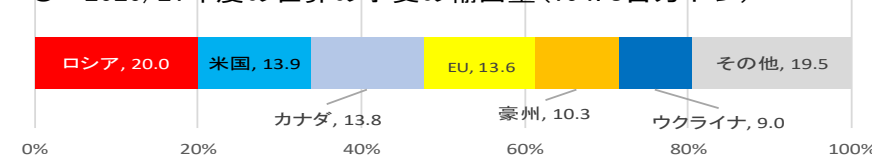
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	730.9	763.9	773.4	0.8	1.2
消 費 量	734.7	747.0	769.3	9.8	3.0
うち飼料用	139.2	139.0	147.8	5.4	6.4
輸 出 量	173.7	191.5	194.8	1.1	1.8
輸 入 量	171.2	185.3	189.5	0.2	2.3
期末在庫量	283.2	300.1	304.2	▲ 9.0	1.4
期末在庫率	38.5%	40.2%	39.5%	▲ 1.7	▲ 0.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (9 February 2021)

○ 2020/21年度の世界の小麦の生産量(773.4百万トン) (単位：%)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸出量(194.8百万トン)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸入量(189.5百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 5.5%減の 49.7 百万トンの見込み。品種別には、冬小麦は対前年度比 11.1%減の 31.9 百万トン、春小麦は同 4.4%増の 15.9 百万トン、デュラム小麦は同 27.5%増の 1.9 百万トンの見込み。

USDA「Winter Wheat and Canola Seedings」(2021.1.12)によれば、2021/22年度の冬小麦の作付面積は、12.95 百万ヘクタールと前年度に比べ 5%の増加の見込みとなったものの、史上 4 番目に低い水準である。

現在、冬小麦は越冬期に入っているが、同「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.2.17)によれば、2 月に入り、気温が北部、中央プレーンズで平年を下回り、モンタナ州の北東部、北及び南ダコタ州の西部のスノーカバーがない地域では、極寒に見舞われ冬枯れのおそれが強まった。2 月半ば、中央及び南部のスノーカバーが少なかった小麦の圃場では、気温が低下する前に降雪によりスノーカバーで覆われた。

【貿易情報・その他】USDA「Wheat Outlook」(2021.2.11)によれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、26.8 百万トンの見込み。品種別の輸出量では、ハード・レッド・ウインター(HRW)が、最近の販売ペースの鈍化と国際市場で競争が激化するとの見込みから前月より減少、一方、ハード・レッド・スプリング(HRS)は中国からの高品質、高タンパクの需要の継続と順調な輸出ペースから前月より増加、また、ホワイト小麦(WW)は、好調な輸出で 1966/67 年度以降最高となる見込み。

2021 年 1 月の輸出先国は、メキシコ(18.0%)、フィリピン(13.5%)、日本(13.5%)の順で、中国は第 12 位の 4.1 万トンであった。なお、2020 年 1 月から 12 月の累計ではフィリピン(13.0%)、メキシコ(11.3%)、日本(10.1%)、中国(8.3%)の順であった。

また、期末在庫量は、前月からの変更はなく、22.8 百万トンと対前年度比 18.7%減となり、2015/16 年度以降最低の見込み。

小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	51.3	52.6	49.7	-	▲ 5.5
消費量	30.0	30.6	31.4	-	2.7
うち飼料用	2.4	2.8	3.4	-	23.6
輸出量	25.5	26.3	26.8	-	2.0
輸入量	3.7	2.9	3.3	-	14.3
期末在庫量	29.4	28.0	22.8	-	▲ 18.7
期末在庫率	53.0%	49.2%	39.1%	-	▲ 10.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	16.03	15.13	14.87	-	▲ 1.7
単収(t/ha)	3.20	3.47	3.34	-	▲ 3.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(9 February 2021)

図 米国の小麦期末在庫率の推移(2000/01年度～2020/21年度)

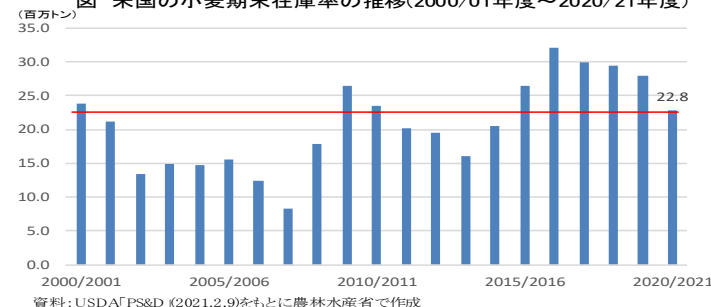


表 米国の小麦輸出先国別輸出量(輸出検証高)

(万トン)

2021年1月			2020年1月～12月		
国名	検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)
メキシコ	35.9	18.0	フィリピン	329.8	13.0
フィリピン	26.9	13.5	メキシコ	287.3	11.3
日本	26.8	13.5	日本	255.6	10.1
インドネシア	16.5	8.3	中国	210.3	8.3
韓国	15.8	7.9	韓国	140.2	5.5
その他	77.3	38.8	その他	1311.9	51.7
合計	199.2	100.0	合計	2,535.2	100.0

注1. 1月の輸出検証高は、1月7,14,21,28,2月4日の合計値

注2. 累積輸出検証高は、2020年1月2日～12月31日の合計

資料：USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2021年1月15日)より作成。

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2021.2.17)によれば、2020/21 年度の生産量は、前年度より 8.8 %増加の 35.2 百万トンの見込み。品種別には、デュラム小麦が前年度に比べ 31%増加し 6.6 百万トンと直近 5 年間の平均を 2%上回り、普通小麦が前年度に比べ 4.5%増加し 28.6 百万トンと直近 5 年間の平均を 14%上回る見込み。

平均的な品質は、デュラム小麦、普通小麦(カナディアン・ウエスタン・レッド・スプリング：CWRS)とも前年度及び直近 5 年間の平均を上回っている。

「Canadian Grain Commissions sample survey analysis to January 6, 2021」によれば、デュラム小麦の 80%以上が No1、No2 小麦に格付けされ、平均タンパク含有量は、13.8%と前年度を下回るものの、直近 5 年平均と同水準となっている。また、CWRS の 80%以上が No1、No2 小麦、8%が No3、更に 8%が飼料用に格付けされており、No1、No2 小麦の平均タンパク含有量は 13.3%で、前年度の 13.5 %、直近 5 年の 13.4%を下回っている。

2021/22 年度の前年度より 6.9%減少の 32.7 百万トンの見込み。

品種別には、デュラム小麦は収穫面積が増加すると見られるものの、単収を平均単収とすると、前年度に比べ 4.1%減少の 6.3 百万トン、また、普通小麦は、他の作物との栽培地の競合から収穫面積が減少すると見られ、単収を平均単収とすると、前年度より 7.6%減少の 26.4 百万トンの見込み。輸出量は、デュラム小麦が、特にヨーロッパからの需要が落ち込むとみられ、前年度より 8%減少の 5.0 百万トン、普通小麦は中国の強い需要が継続するか現時点で予測しがたいことから前年度より 9.5%減少の 19.0 百万トンと見込まれている。

【貿易情報・その他】カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2020/21 年度(2020 年 8 月～2021 年 7 月)の 8 月から 12 月までの普通小麦の輸出量は 837.1 万トンで、国別では、中国(124.1 万トン)、インドネシア(96.7 万トン)、日本(77.7 万トン)の順。また、同期間のデュラム小麦の輸出量は 245.1 万トンで、イタリア(85.3 万トン)、モロッコ(57.4 万トン)、チュニジア(15.5 万トン)の順である。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	32.4	32.7	35.2 (35.2)	-	7.7	
消 費 量	9.2	9.3	10.0 (8.5)	0.4	8.0	
うち飼料用	4.2	4.2	4.8 (3.7)	0.4	15.4	
輸 出 量	24.4	24.6	26.5 (26.5)	-	7.6	
輸 入 量	0.5	0.7	0.5 (0.1)	-	▲ 33.8	
期末在庫量	6.0	5.5	4.6 (5.9)	▲ 0.4	▲ 15.8	
期末在庫率	18.0%	16.2%	12.7% (16.7%)	▲ 1.2	▲ 3.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.88	9.66	10.02 (10.02)	-	3.7	
単収(t/ha)	3.27	3.38	3.51 (3.51)	-	3.8	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2021)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(17 February 2021)

表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出相手国(輸出検証高、シェア)
2020/21年度(2020年8月～2021年7月)の8月～12月

	普通小麦			デュラム小麦		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	中国	124.1	14.8	イタリア	85.3	34.8
2	インドネシア	96.7	11.6	モロッコ	57.4	23.4
3	日本	77.7	9.3	チュニジア	15.5	6.3
4	ペルー	76.8	9.2	ベルギー	13.2	5.4
5	コロンビア	56.4	6.7	アルジェリア	12.0	4.9
6	その他	405.4	48.4	その他	61.7	25.2
計		837.1	100.0	計	245.1	100.0

注1:Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。

注2普通小麦の品種はNO.1-3Canada Weatern Red Spring No.1Canada Western Red Winter

No.2Canada Eastern Red Spring No.2Canada Eastern Oter,デュラムはCanadaWestern Amber Durum Others

資料:Canadian Grain Commission「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

< 豪州 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、2年連続の干ばつから回復し、対前年度比97.4%増の30.0百万トンとなる見込み。一方、豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Crop Report」(2021.2.16)によれば、同年度の生産量は12月見通しから上方修正され、前年度比120%増で史上最高の33.3百万トンの見込み。主要生産州別の生産量は、WA州で前年度比52.7%増の9.5百万トン、NSW州で史上最高の13.1百万トン、SA州で同50%増の4.8百万トン。なお、WA州穀物協会(GIWA)「Crop Report」(2021.2.12)によれば、WA州の生産量は9.2百万トンで、降水量が少ない割に生産量が増加し、品質も良好。

【貿易情報・その他】USDA「Grain World Markets and Trade」(2021.2.9)によれば、世界的な小麦の需要増や期末在庫量の下方修正に加え、とうもろこしや大豆の価格上昇で主要輸出国の輸出価格が上昇する中、豪州産の輸出価格は、1月7日時点の274ドル/トンから、275ドル/トン(2月5日時点)とわずかな上昇にとどまった。

また、輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比118.8%増の20.0百万トンとなる見込み。また、ABARES「Agricultural commodities」(2020.12.7)によれば、2020/21年度の輸出量は、前年度の倍以上の21百万トンとなる見込み。前年より生育条件に恵まれたことによる生産量の増加や、国内の飼料用需要が減少したことで、国内価格が低下し、輸出量が増加する見込み。

アセアン諸国の中で年間10百万トンを超える小麦輸入国のインドネシアの輸入量シェアで2017年に44.6%(インドネシア統計局)を占めていた豪州は生産量の減少で主要輸出先であった東南アジア市場の輸出シェアを黒海諸国等に奪われ、2018年、2019年のシェアを22.6%、8.3%と低下させていたものの、回復が期待されている。

USDAによれば、期末在庫量は、前月に比べ0.3百万トン下方修正され、5.1百万トンの見込み。EU、米国、カナダ等の主要輸出国の期末在庫量が前年度に比べ減少する一方で、豪州の期末在庫量は前年度に比べ75.9%増加する見込み。

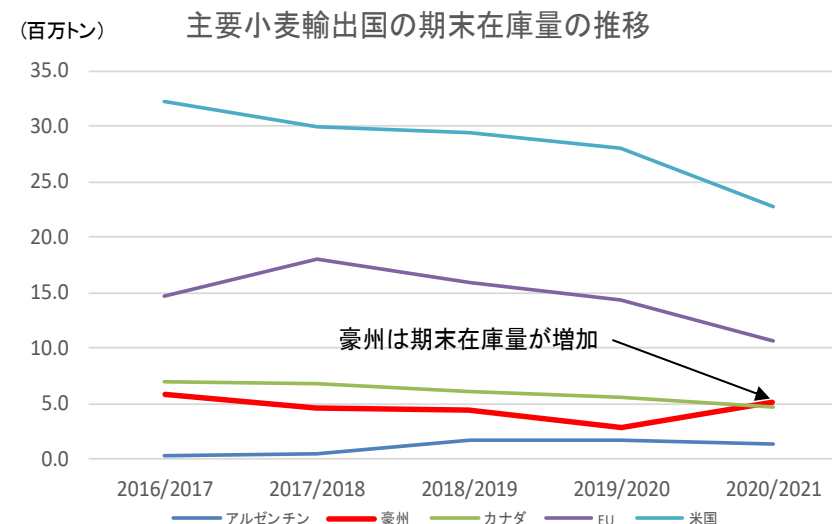
小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	17.6	15.2	30.0 (29.3)	-	97.4	
消費量	9.2	8.5	8.0 (7.8)	-	▲ 5.9	
うち飼料用	5.7	5.0	4.5 (4.2)	-	▲ 10.0	
輸出量	9.0	9.1	20.0 (19.4)	-	118.8	
輸入量	0.5	0.9	0.2 (0.3)	▲ 0.3	▲ 77.5	
期末在庫量	4.4	2.9	5.1 (5.9)	▲ 0.3	75.9	
期末在庫率	24.4%	16.4%	18.2% (21.6%)	▲ 1.1	1.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	10.40	10.20	13.00 (13.0)	-	27.5	
単収(t/ha)	1.69	1.49	2.31 (2.40)	-	55.0	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2021)

IGC 「Grain Market Report」(14 January 2021)



資料: USDA「PS&D」(2021.2.9)をもとに農林水産省で作成

(※)NSW 州: ニューサウスウェールズ州 WA 州: ウェスタンオーストラリア州 QLD 州: クイーンズランド州 SA 州: サウスオーストラリア州

< EU >

【生育・生産状況】EU委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2020.1.28)によれば、2020/21年度の生産量(EU27)は、前月予測から0.3百万トン上方修正され124.6百万トンの見込み。

品種別には、普通小麦は、ポーランド等で上方修正されたことから、前月予測から0.3百万トン上方修正され117.3百万トン、デュラム小麦は、フランス等で下方修正されたことから、前月予測からわずかに下方修正され7.3百万トンの見込み。また、AMIS「Market Database Supply and Demand Overview」(2020.12.4)によれば、英国の生産量は10.1百万トンの見込み。

なお、USDAによれば、2020/21年度の生産量(EU27+英国)は、前月予測からの変更はなく、対前年度比12.1%減の135.8百万トンの見込み。USDAによれば、2021/22年度の冬小麦は、概ね休眠期に入っている。生育条件は、土壌水分量が断続的な降雨により欧州全体で十分に確保されており良好。越冬状況は、ドイツやバルト海沿岸諸国では、2月中旬の気温が低下したものの、スノーカバーで保護されており、また、フランス、英国では積雪は少ないものの、気温が冬枯れの限界のマイナス17度を上回っていることから、冬枯れの懸念はない。

【貿易情報・その他】USDA「Grain:World Markets and Trade」(2021.2.9)によれば、EUの輸出価格は、世界的な小麦需要の増加と期末在庫量の下方修正や、とうもろこし、大豆の国際価格の上昇により、2020年1月7日時点の276ドル/トンから280ドル/トン(2021年2月5日現在)へ上昇した。

2020/21年度の輸出量は、最近の好調な輸出ペースから、前月予測から0.5百万トン上方修正されたものの、対前年度比29.7%減の27.0百万トンの見込み。

2020年11月のEU(27ヶ国)の普通小麦の輸出先国は、アルジェリア(22.4%)、中国(13.2%)、サウジアラビア(9.6%)。また、デュラム小麦の輸出先国はコートジボワール(20.8%)、モーリタニア(16.2%)、アルジェリア(11.9%)の順。

小麦－EU（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	136.6	154.5	135.8 (123.0)	-	▲ 12.1
消費量	121.1	122.5	118.5 (104.4)	-	▲ 3.3
うち飼料用	51.5	52.5	49.0 (41.0)	-	▲ 6.7
輸 出 量	23.3	38.4	27.0 (26.2)	0.5	▲ 29.7
輸 入 量	5.8	4.8	6.0 (6.4)	-	25.0
期末在庫量	15.9	14.3	10.6 (10.6)	▲ 0.5	▲ 25.9
期末在庫率	11.0%	8.9%	7.3% (8.1%)	▲ 0.4	▲ 1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	25.52	26.12	24.61 (22.76)	-	▲ 5.8
単収(t/ha)	5.35	5.91	5.52 (5.40)	-	▲ 6.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA「PS&D」(9 February 2021) 表内のデータはEU27+英国
IGC 「Grain Market Report」(14 January 2021) ()内はEU27ヶ国のデータ

EUの普通小麦輸出先国(11月)

	2019年			2020年		
	国名	輸出量 (万吨)	シェア (%)	国名	輸出量 (万吨)	シェア (%)
1	アルジェリア	49.87	20.8%	アルジェリア	61.74	22.4%
2	サウジアラビア	41.59	17.3%	中国	36.31	13.2%
3	中国	18.04	7.5%	サウジアラビア	26.49	9.6%
4	エジプト	17.83	7.4%	ナイジェリア	25.13	9.1%
5	ベトナム	12.39	5.2%	モロッコ	19.67	7.1%
6	ケニア	10.12	4.2%	トルコ	14.08	5.1%
	その他	90.37	37.6%	その他	92.48	33.5%
	総計	240.22	100%	総計	275.90	100%

EUのデュラム小麦輸出先国(11月)

	2019年			2020年		
	国名	輸出量 (万吨)	シェア (%)	国名	輸出量 (万吨)	シェア (%)
1	トルコ	4.25	38.6%	コートジボワール	1.16	20.8%
2	モロッコ	2.41	21.8%	モーリタニア	0.90	16.2%
3	コートジボワール	1.26	11.4%	アルジェリア	0.66	11.9%
4	チュニジア	0.46	4.2%	リビア	0.60	10.7%
5	セネガル	0.33	3.0%	サウジアラビア	0.36	6.4%
6	キューバ	0.30	2.7%	ノルウェー	0.33	5.9%
	その他	2.01	18.3%	その他	1.57	28.2%
	総計	11.02	100%	総計	5.57	100%

(EC(欧州委員会), Cereals exports and imports (COMEXT) (1/19)をもとに農林水産省で作成。

< 中国 >

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2021.2.5)によれば、2020/21年度の小麦の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比0.5%増の134.2百万トン。品種別には、冬小麦は126.8百万トン、春小麦は7.4百万トンの見込み。

中国中央气象台(2021.2.4)によれば、2021/22年度の冬小麦は、小麦主要生産地北部(河北、安徽、甘肅、陝西省等)では越冬期、同南部(四川、雲南省等)では、節間生長期、一部で開花期を迎えている。同北部では、1月初旬及び中旬に寒波に見舞われ、一部の苗に凍害が発生したものの、その影響は比較的小さかった。その後、月末まで多くの生産地域で気温が平年並みとなったため、北部の越冬、南部の生長に影響はなかった。同年度の中国全土の冬小麦の作柄は、比較的良好である。また、全国の冬小麦の作柄は、一、二類苗の比率がそれぞれ21%、79%と、前年度同期(21%、78%)並となっている。

【貿易情報・その他】中国農産品供需形勢分析月報(1月)によれば、小麦の飼料需要が旺盛なものの、とうもろこしの価格が上昇し小麦価格と逆転し、その差が拡大。河南省鄭州では、とうもろこしの価格が小麦より500gあたり0.15元高い。

中国糧油情報センターによれば、消費量は、前月予測に比べ、6.0百万トン上方修正され、137.3百万トンとなる見込み。上方修正の内訳は、飼料用が4.0百万トン、工業用が2.0百万トン。この増加は、中国国内とうもろこし価格の高騰で小麦の代替需要が高まったことが理由である。

USDAによれば、中国国内では、養豚業のアフリカ豚熱からの回復でとうもろこし価格が上昇したため、小麦、米の飼料用需要が増加している。この背景には、中国政府による旧穀となった国家備蓄在庫小麦の国内とうもろこし価格より安価な競売がある。1月には、競売で12百万トン以上の小麦が供給された。一方、中国の輸入小麦価格は、国内価格よりも安価であり、特に中国南部では、安価な輸入価格が食用小麦の飼料用用途への誘因となっている。2020/21年度の前半の価格差は、フランス産の平均港湾引渡し価格が270ドル/トンで、国内とうもろこし価格を160ドル/トン下回り、国内小麦価格を120ドル/トン下回っている。USDAはこの価格差が中国の小麦輸入に拍車をかけ、小麦の飼料用途での消費を持続させると見ている。

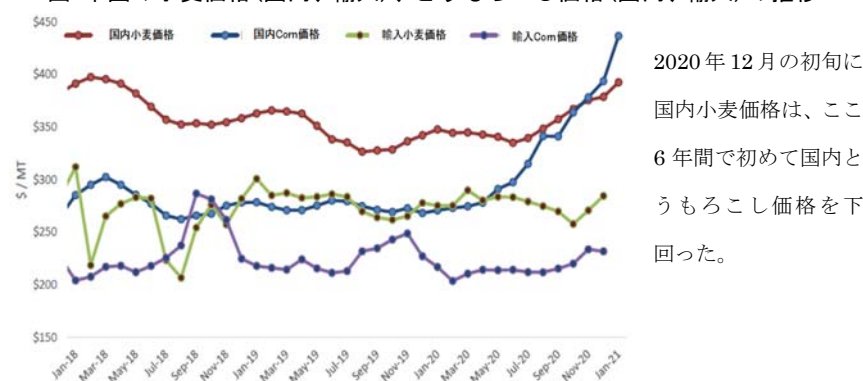
小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	131.4	133.6	134.3 (135.0)	-	0.5
消費量	125.0	126.0	140.0 (132.0)	5.0	11.1
うち飼料用	20.0	19.0	30.0 (21.0)	5.0	57.9
輸出量	1.0	1.1	1.0 (1.3)	-	▲ 4.8
輸入量	3.2	5.4	10.0 (7.9)	1.0	85.9
期末在庫量	139.8	151.7	154.9 (139.8)	▲ 4.0	2.1
期末在庫率	110.9%	119.4%	109.9% (104.9%)	▲ 7.0	▲ 9.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.27	23.73	23.38 (23.8)	-	▲ 1.5
単収(t/ha)	5.42	5.63	5.74 (5.45)	-	2.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2021)
IGC 「Grain Market Report」(14 January 2021)

図 中国の小麦価格(国内、輸入)、とうもろこし価格(国内、輸入)の推移



資料: Grain: World markets and Trade(20212.9)

< ロシア >

【生育・生産状況】ロシア農業省によれば、2020/21 年度の冬小麦及び春小麦の収穫量(品質調整前)は、85.9 百万トン(12 月 28 日時点)の見込み。USDA によれば、生産量は、前月予測からの変更はなく、85.3 百万トンの見込み。そのうち、冬小麦は 59.8 百万トン、春小麦は 25.5 百万トン。

2021 年 1 月は、ロシア・ヨーロッパ地域では、上旬、下旬はかなり温暖で、中旬に気温が急落したものの、月間平均気温は平年を上回った。このため、2021/22 年度の冬小麦の越冬は概ね並の状態である。ロシア・アジア部では全体的に寒冷であったが、越冬条件は概ね並であった。

【貿易情報・その他】ロシア連邦統計局によれば、2021 年 1 月のロシアの消費者物価指数は、前年同月を 100 とすると、パン類が 107.5、穀粒及び豆類が 120.8、パスタが 112.8 と上昇している。前月比では、それぞれ 100.5、100.6、100.9 となっている。ロシア国内の 2021 年 1 月 1 日現在の小麦の在庫量は、前年同日比で 8.7%増の 22.6 百万トンと高水準であったが、輸出税賦課前の駆け込みで 1 月にロシア南部からの輸出が記録の数量となったため、2 月以降は内陸の中央連邦管区からの輸出に切り替わるとみられている。

USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、輸出関税の上昇前に輸出が集中するとみられることから前月からの変更はなく、対前年度比 13.1%増の 39.0 百万トンの見込み。なお、USDA はアフガニスタン、バングラデシュ等では、価格競争力のあるインド産小麦の輸入が増加し、ロシアの輸出関税が導入されれば同地域の輸出シェアはインドに奪われる可能性があると考えている。

ロシア政府は、2021 年 2 月 15 日～6 月 30 日まで小麦を含む穀物の輸出枠を 1,750 万トンに設定。また、同枠内の小麦輸出に対して 25 ユーロ/トン、枠外に対しては 50%(但し、最低 100 ユーロ/トン)の輸出税の賦課を決定(2020 年 12 月)。加えて、3 月 1 日から小麦の枠内輸出税の 25 ユーロ/トンから 50 ユーロ/トンへの引上げが決定された(1 月 23 日)。更に、2 月 6 日には 2021 年 6 月 2 日から変動式関税の導入が決定された。同関税は、輸出通関の前週の市況(ノボロシスクの平均 FOB 価格)が 200 ドル/トンを超えた場合に、超えた価格に 70%の関税がかかる(概要編 P2 を参照)。

小麦－ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位: 百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	71.7	73.6	85.3 (83.5)	-	15.9
消 費 量	40.5	40.0	41.5 (42.9)	-	3.8
うち飼料用	18.0	17.0	18.0 (18.7)	-	5.9
輸 出 量	35.9	34.5	39.0 (38.9)	-	13.1
輸 入 量	0.5	0.3	0.5 (0.3)	-	51.5
期末在庫量	7.8	7.2	12.5 (11.0)	-	73.3
期末在庫率	10.2%	9.7%	15.6% (13.4%)	-	5.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.34	27.31	28.60 (28.6)	-	4.7
単収(t/ha)	2.72	2.70	2.98 (2.95)	-	10.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2021)
IGC 「Grain Market Report」(14 January 2021)

表 ロシアの小麦輸出先国(2020年12月、2020年7月～2020年12月)

	2020年12月			2020年7月～2020年12月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	エジプト	157.2	32.3	エジプト	575.3	22.3
2	トルコ	73.3	15.1	トルコ	467.4	18.2
3	パキスタン	26.8	5.5	バングラデシュ	139.1	5.4
4	イエメン	26.0	5.4	パキスタン	117.3	4.6
5	アゼルバイジャン	24.3	5.0	アゼルバイジャン	105.3	4.1
6	その他	179.1	36.8	その他	1170.0	45.4
計		486.7	100.0		2574.4	100.0

(注)2020/21年度は、2020年7月から2021年6月
資料:ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・パラグアイ等で下方修正も、南アフリカ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

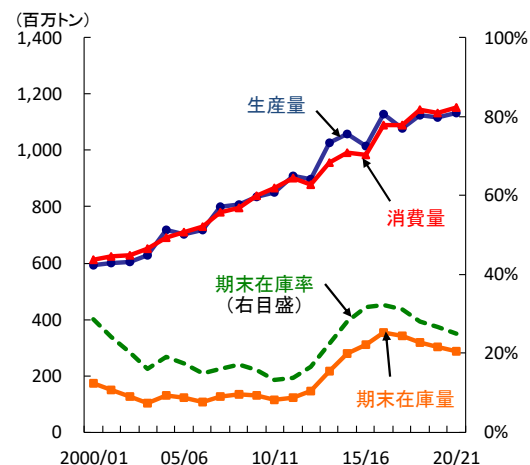
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・中国等で上方修正も、EU等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・米国、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2021.2.9)をもとに農林水産省にて作成

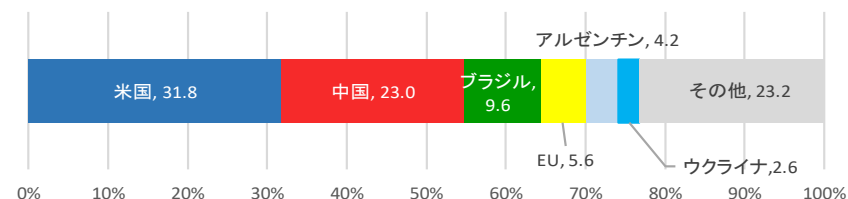
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

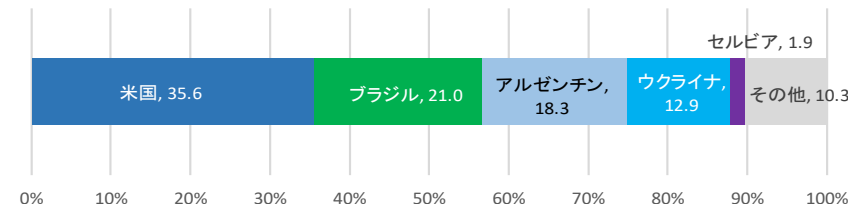
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	1,123.8	1,116.6	1,134.1	0.2	1.6
消費量	1,144.5	1,133.7	1,150.5	▲ 2.5	1.5
うち飼料用	703.6	714.2	727.4	2.4	1.8
輸 出 量	181.7	171.0	185.7	2.1	8.6
輸 入 量	164.4	165.4	179.0	2.7	8.3
期末在庫量	320.1	303.0	286.5	2.7	▲ 5.4
期末在庫率	28.0%	26.7%	24.9%	0.3	▲ 1.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 February 2021)

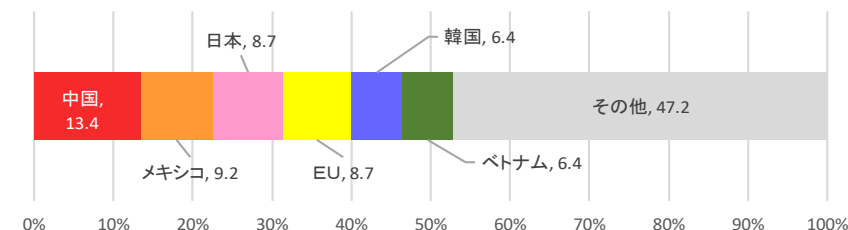
○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,134.1百万トン)(単位：%)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸出量(185.7百万トン)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸入量(179.0百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2020/21 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 4.1%増の 360.3 百万トンの見込み。前年 11 月末時点で、収穫は例年より早いペースでほぼ終了した。

【需要動向】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 1.3%減の 305.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、中国向けを中心とする大量輸出を反映して、前月予測から 1.3 百万トン上方修正され、前年度より 46.2%増の 66.0 百万トンと史上最高の見込み。中国の家畜の飼養頭数と食肉生産の増加により中国のとうもろこし輸入量が増加することに加え、中国の主要輸入元であるウクライナのとうもろこし生産・輸出量が高温乾燥により大幅に減少することが増加の背景である。

なお、輸出検証高(2021 年 1 月 7 日～2 月 4 日)は、6.4 百万トンであり、内訳は日本（1.5 百万トン）、中国（1.3 百万トン）、メキシコ（1.2 百万トン）、コロンビア（0.6 百万トン）の順である。

2020/21 年度の期末在庫量は、輸出量の上方修正に伴い、前月予測から 1.3 百万トン下方修正され、前年度より 21.8%減の 38.2 百万トンで、2013/14 年度以来の最低水準の見込み。

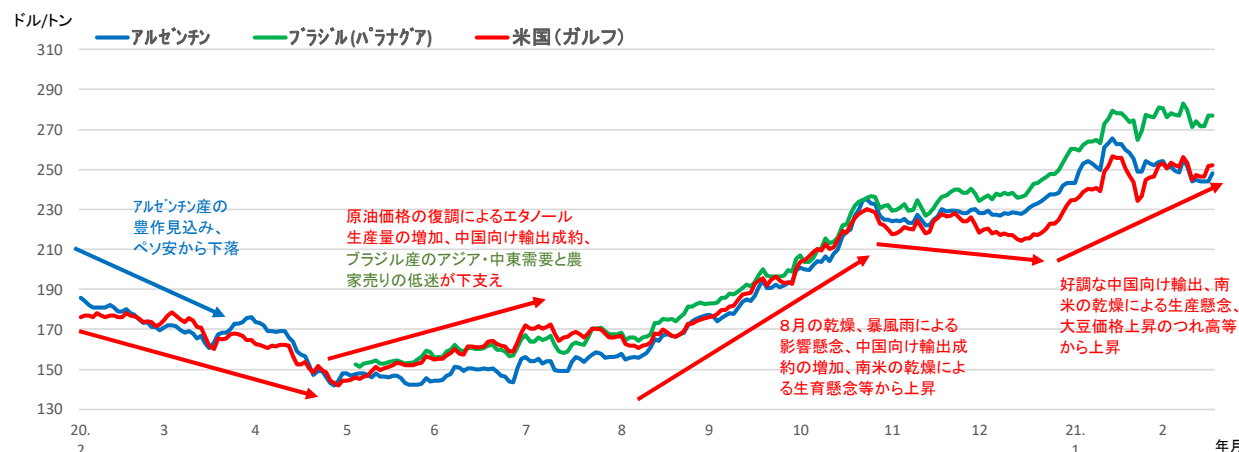
とうもろこしー米国

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	364.3	346.0	360.3	-	4.1
消費量	310.5	309.5	305.5	-	▲ 1.3
うち飼料用	137.9	149.9	143.5	-	▲ 4.3
エタノール用等	136.6	123.2	125.7	-	2.0
輸出量	52.5	45.2	66.0	1.3	46.2
輸入量	0.7	1.1	0.6	-	▲ 39.6
期末在庫量	56.4	48.8	38.2	▲ 1.3	▲ 21.8
期末在庫率	15.5%	13.7%	10.3%	▲ 0.4	▲ 3.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.89	32.92	33.37	-	1.4
単収(t/ha)	11.07	10.51	10.79	-	2.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、大豆の収穫遅れに伴う冬とうもろこしの作付けペースの遅れから単収が下方修正されたものの、とうもろこしの国内・国際価格の上昇から特に中西部で冬とうもろこしの収穫面積が上方修正されたことから、前月予測からの変更はなく、前年度より6.9%増の109.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

1月後半から2月上旬にかけてブラジル全土で降雨。南部のリオグランデドスル州の早植えの夏とうもろこしは2月11日現在で39%が収穫済み。冬とうもろこしの主産地であるマトグロッソ州では大豆の収穫遅れにより、冬とうもろこしの作付けは2月12日現在で21%と過去5か年平均より遅れている。ラニーニャ現象に伴う降雨のばらつきについて今後も注視が必要。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.2.11)によれば、収穫中の2020/21年度の夏とうもろこしの生産量は、乾燥による作付け遅延と生育期の乾燥の影響もあり、作付面積、単収ともに前年度より減少し、前年度比8.0%減の23.6百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされる冬とうもろこしの生産量は作付面積の拡大により前年度比6.5%増の81.9百万トンが見込まれ、合計では前年度比2.9%増の105.5百万トンの見込み。(P.20 大豆—ブラジルのクロップカレンダー参照)。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.2%増の70.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より9.9%増の39.0百万トンの見込み。輸出シェアは世界第2位を維持。(図参照)。一方、輸入量は1.5百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年1月の輸出量は2.5百万トンで、前年同月と比べ22%増となっている。内訳は、1位がエジプトで58万トン、2位が台湾で36万トン、3位がベトナムで31万トンとなっている。

とうもろこし—ブラジル

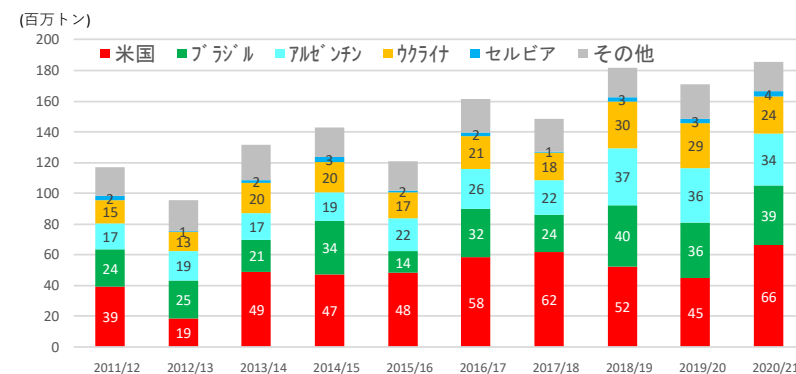
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	101.0	102.0	109.0	(105.8)	-	6.9
消 費 量	67.0	68.5	70.0	(72.4)	-	2.2
うち飼料用	57.0	58.5	60.0	(53.5)	-	2.6
輸 出 量	39.7	35.5	39.0	(35.0)	-	9.9
輸 入 量	1.7	1.5	1.5	(1.0)	-	-
期末在庫量	5.3	4.8	6.3	(6.0)	▲ 0.2	31.3
期末在庫率	5.0%	4.6%	5.8%	(5.6%)	▲ 0.2	1.2
(参考)						
収穫面積(百万ha)	17.50	18.50	19.70	(19.70)	0.20	6.5
単収(t/ha)	5.77	5.51	5.53	(5.37)	▲ 0.06	0.4

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2021)
IGC「Grain Market Report」(14 January 2021)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」(2021.2.9)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDA によれば、2020/21 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 6.9%減の 47.5 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所（2021.2.18）によれば、最近の降雨により土壌水分が保たれ、夏作物の生育状況が支援された。一部で収穫が始まり、収穫進捗率は 0.4%。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 5.6%減の 34.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2020 年 1～12 月の輸出量は 37.0 百万トンで、前年同期より 2.4%増。内訳は、1 位がベトナム 7.8 百万トン、2 位がエジプト 4.0 百万トン、3 位がアルジェリア 3.2 百万トン。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げた。その後、アルゼンチン政府は、国内のとうもろこしの価格の上昇から畜産向け飼料供給を確保するため、2020 年 12 月 30 日、2021 年 2 月 28 日までとうもろこし輸出を停止すると発表した。しかし、国内の農家団体等からの強い抗議行動を受けて、アルゼンチン政府は 1 月 11 日に 1 日当たり 3 万トンの制限付きで輸出を再開する旨発表した。結局、1 月 12 日には当初 12 月末に発表した輸出停止措置そのものを撤回したが、輸出税は継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	51.0	51.0	47.5 (52.0)	-	▲ 6.9
消 費 量	13.8	13.5	15.0 (21.3)	-	11.1
うち飼料用	9.7	9.5	11.0 (16.7)	-	15.8
輸 出 量	37.2	36.0	34.0 (32.5)	-	▲ 5.6
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.4	3.9	2.4 (3.6)	▲ 0.5	▲ 38.5
期末在庫率	4.6%	7.8%	4.9% (6.7%)	▲ 1.0	▲ 3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.10	6.30	6.10 (7.40)	-	▲ 3.2
単収(t/ha)	8.36	8.10	7.79 (7.03)	-	▲ 3.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2021)
IGC 「Grain Market Report」(14 January 2021)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこし圃場の風景

(2月4日撮影)

前年9月中旬に作付け。十分に登熟が進み、成熟後期を迎えている。収穫は3月上旬の予定。



< 中国 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より0.0%減の260.7百万トンの見込み。前年11月上旬時点で、全土のとうもろこしの収穫はすでに終了。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、家畜の飼養頭数と食肉生産の増加から飼料用消費量が前月予測から6.0百万トン上方修正された一方、飼料用以外の食用等の需要が4.0百万トン下方修正された。その結果、消費量全体では前月予測から2.0百万トン上方修正され、前年度より4.0%増の289.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸入量は、国内の家畜の飼養頭数と食肉生産量の増加により飼料用消費が旺盛なことや国内とうもろこし価格の上昇から、前年12月にウクライナから、1月に米国からとうもろこしを大量に輸入したことを反映し、前月予測から6.5百万トン上方修正され、前年度より215.8%増の24.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2020年1～12月の輸入量は11.3百万トンで、前年同期の2.4倍。従来からの輸入先であるウクライナ産6.3百万トン（56%）が依然として最も多いが、ウクライナ産とうもろこしの高温乾燥による減産と旺盛な飼料用需要もあり、米国産が4.3百万トン（38%）と前年8月以降急激にシェアを伸ばしている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報1月号」によると、1月の国内流通価格は、12月末の雨雪などの悪天候に、河北省、黒竜江省などで新型コロナウイルス感染症の再発が重なり、一部の高速道路を封鎖したことで輸送に支障が生じた。加工企業は今後の感染拡大を懸念し、事前に積極的に仕入れ、かつ先物市場で投機資金が増加したことから、2,920元/トンとさらに上昇し、高値で推移している。また、外国産との内外価格差は拡大している。

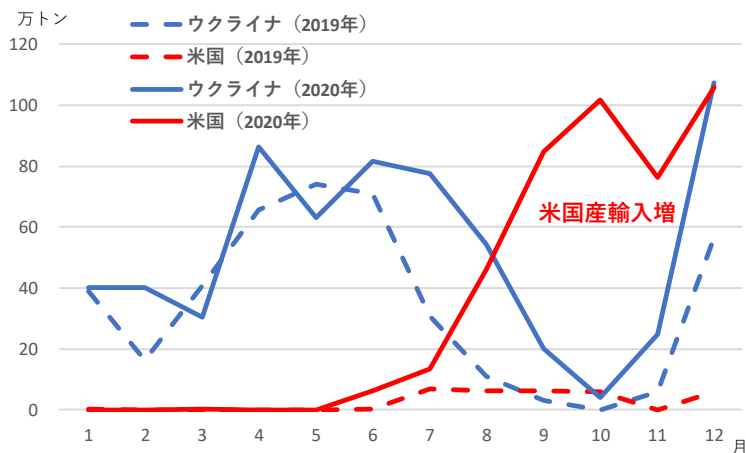
とうもろこし—中国

(単位: 百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	257.2	260.8	260.7 (260.7)	-	▲ 0.0
消費量	274.0	278.0	289.0 (288.7)	2.0	4.0
うち飼料用	191.0	193.0	206.0 (184.0)	6.0	6.7
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	100.0
輸 入 量	4.5	7.6	24.0 (15.0)	6.5	215.8
期末在庫量	210.2	200.5	196.2 (178.8)	4.5	▲ 2.2
期末在庫率	76.7%	72.1%	67.9% (61.9%)	1.1	▲ 4.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	42.13	41.28	41.26 (41.50)	-	▲ 0.0
単収(t/ha)	6.10	6.32	6.32 (6.28)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 February 2021)
IGC 「Grain Market Report」(14 January 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分